



# 誰が選挙区を代表するのかー現代日本における地縁と地理的代表ー

西村, 翼

---

(Degree)

博士 (政治学)

(Date of Degree)

2023-03-25

(Date of Publication)

2026-03-25

(Resource Type)

doctoral thesis

(Report Number)

甲第8558号

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100482306>

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。



# 博士學位論文

誰が選挙区を代表するのか

—現代日本における地縁と地理的的代表—

神戸大学大学院法学研究科

専攻: 法学政治学

指導教員: 品田裕

学籍番号: 179J033J

氏名: 西村翼

提出年月日: 2023年1月6日

## 要旨

本研究は、同一の選挙制度下での議員の地理的代表度の差を説明する要因は何か、代表されやすい地域とそうでない地域の差は何によって生じるか、議員が地域を代表するときどのような方法を用いるかといった問いに、議員と選挙区の地縁に注目して回答する。議員が国全体を代表するかその一部の地域を代表するかは、代表の「古典的ジレンマ」と称される問題である。特に、多くの先行研究は地理的代表の規定要因として選挙制度を重視し、研究を蓄積してきた。

しかしながら、選挙制度を中心とした先行研究の枠組みには、同一制度下での議員の多様性を説明できないという限界がある。それにも関わらず、以下のような理由で近年では地理的代表への注目は弱まっている。まず、日本では衆議院の小選挙区比例代表並立制導入により、中選挙区制時代のような地元利益志向は鳴りを潜め、全国的な争点中心の政治に転換したとされる。また、近年代表論が注目を集めているが、これらの議論は性別や人種の代表を取り上げることが多く、地理的代表への関心が低下している。

本研究は地理的代表を議員個人レベルで説明するため、議員の独自性を強調する近年の代表論を参考に、理論枠組みを構築する。特に Mansbridge の選抜モデルを参考としつつ、合理的選択理論の枠組みに落とし込むことで、理論を構築した。具体的には、有権者は議員の属性を手がかりに、地域を代表する程度が高いと予想される候補者を選挙で選抜し、選抜された地元議員は一貫して地元選挙区を代表しようとする想定する。ここで、地縁は記述的代表と実質的代表をつなぐ役割を果たす。さらに、本研究は見落とされがちな代表の多次元性をも含む理論を構築する。具体的には、地理的代表にも象徴応答性、配分応答性、政策応答性といった複数の次元が存在し、地元議員は特に象徴応答性と政策応答性に依存する一方、配分応答性には地縁の有無による差がないと予測する。

実証分析では、はじめに地域の記述的代表を検討する。具体的には、政党による地元候補の公認と、有権者による地元候補への投票という2段階の選抜を順に分析する。次いで、記述的代表との関係に注目しつつ、実質的代表を分析する。すなわち、地縁が実質的代表の象徴応答性、配分応答性、政策応答性という3つの次元に与える影響を分析し、選抜された地元議員が象徴応答性と政策応答性によって一貫して地元選挙区を代表していることを明らかにする。

以上の分析を通して、地縁を中心に、地理的代表についての問いを説明する。具体的には、政党の戦略と選挙区の地理的代表への需要の多寡に応じて、地縁を有する候補者が選抜されていくことを示す。また、こうして選抜された地元議員はより地元選挙区を代表する程度が高いことから、同一の選挙制度下で地理的代表に多様性が生じることを示した。さらに、こうした傾向は、選挙情勢などに左右されず、地元議員は一貫して地元選挙区を代表しようとするのが明らかとなった。こうした発見は日本政治論、選挙制度論、政党組織論や代表論など、様々な分野に貢献する。